

中井だより

中井やまゆり園

新年のご挨拶

副園長 諸星 仁志

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。昨年を振り返りますと、令和5年7月に策定した『当事者目線の支援アクションプラン～一人ひとりの人生を支援する～』を継続して園と本庁で取り組んでまいりました。4つの柱ごとの主な取組状況を報告します。

① 人生に共感し、チームで支援する

これまでどのような人生を歩んできたのか、生育歴から利用者の人生を理解し共感するため、生育歴の充実やカンファレンスの実施など。

② 暮らしをつくる

秦野駅前拠点『らっかせい』や、近隣農家や他事業所との連携など、施設の中だけで完結していた暮らしから、当たり前前に地域で活動する暮らしに向けた取組の実施など。

③ いのちを守る施設運営

長年、障害福祉分野で活躍していた医師を『医務統括』に、医療安全問題に関して実績豊富な看護師を『医務統括補佐』として園に配置し、一人ひとりの利用者の状態を改めて把握し、その結果明らかになった健康リスクの改善に取り組むなど。

④ 施設運営を支える仕組みの改善

職員の不安、悩み、ストレスを解消するための取組として、中井やまゆり園職員アンケートの実施など

このように取り組んでいますが、昨年9月に開催された『県立中井やまゆり園改革アドバイザリー会議』ではアクションプランの複数の取組項目が中断（停滞）しているという厳しい評価があり、また、職員アンケートの結果を受けての対応では、職場環境の改善を図り、利用者支援の向上に繋げるため、組織体制やハラスメント等の改善が求められています。

こうした中、年末年始に園内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、園長の陣頭指揮のもと『コロナ対策緊急体制』を設置してウイルスの封じ込めにあたっていますが、誠に残念ながらお亡くなりになられた利用者が発生したことは園としても重く受け止めており、今後の感染対策に一層配慮していかなければなりません。

園が取り組むべき課題は山積していますが、利用者一人ひとりの当事者目線に立って、利用者が主体となれるよう支援してまいりますので、ご家族の皆様におかれましては、利用者及び職員の応援を本年もどうぞよろしくお願いいたします。